



# 平成26年度 果樹情報 第10号

(平成26年8月5日)



福島県農林水産部農業振興課

## 1 気象概況 (7月後半：果樹研究所)

7月後半の平均気温は、4半旬が21.8℃で平年より1.8℃低く、5半旬が25.7℃で平年より1.3℃、6半旬が26.1℃で平年より0.7℃高く、この期間の降水量は49.5mmで平年の79%でした。

## 2 土壌の水分状況 (8月1日現在)

果樹研究所における土壌水分 (pF値：無かん水・草生栽培りんご園) は、深さ20cmが2.8で乾燥、40cmが1.9、60cmが2.1で適湿状態となっています。

## 3 生育状況 (果樹研究所)

### (1) もも

#### ア 果実肥大 (8月1日現在 暦日比較)

「ゆうぞら」の縦径は平年比104%、側径が平年比106%と平年より大きい状況です。

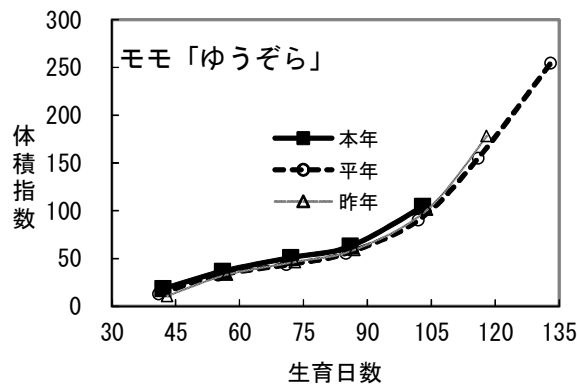


図1 ももの果実肥大

#### イ 早生～中生種の収穫期と果実品質

「日川白鳳」の収穫盛りは7月17日で平年より3日早く、果実の大きさは225gで平年並、糖度は9.8%で平年より低い状況でした。また、「暁星」の収穫盛りは7月25日で平年より2日早く、果実の大きさは212gで平年並、糖度は12.3%で平年よりやや低い状況でした。

「あかつき」の収穫始めは7月29日で平年より4日早い状況でした。

#### ウ 新梢生長 (満開後99日 品種：ゆうぞら)

新梢長は平年比185%と長く、展葉数は平年比101%と平年並、葉色 (SPAD値) は平年比90%とやや淡く、新梢停止は早い状況でした。

表1 ももの新梢生長 (満開後99日比較)

	新梢長 (cm)			展葉数			葉色 (SPAD値)			新梢停止率 (%)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
ゆうぞら	24.2	13.1	185	14.5	14.3	101	42.0	46.6	90	90.0	95.9	94

※ 平年値：1996年～2009年の平均、「ゆうぞら」は満開後102日の測定値

### (2) なし

#### ア 果実肥大 (8月1日現在 暦日比較)

「幸水」の縦径は平年比113%、横径が平年比114%、「豊水」の縦径は平年比112%、横径が平年比116%と各々平年より大きい状況です。

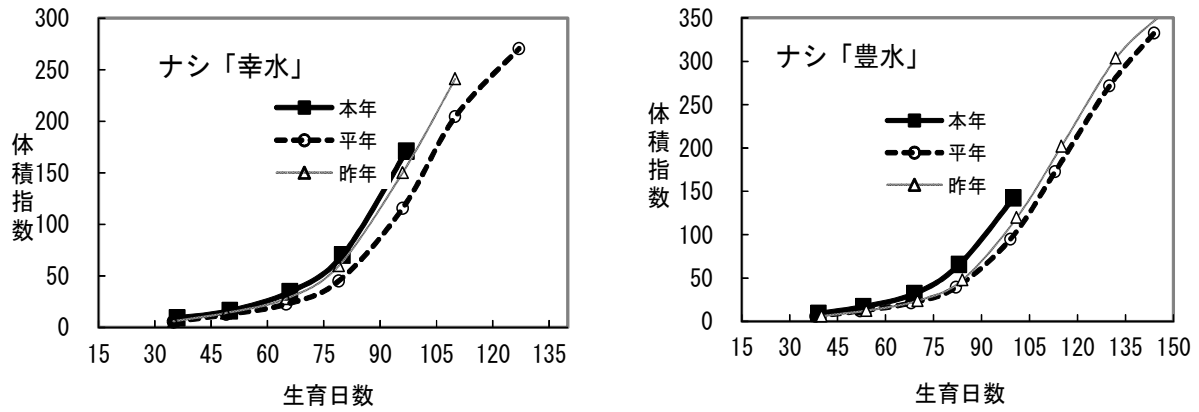


図2 なしの果実肥大

イ 裂果の発生 (品種：幸水)

本年の裂果の発生率は2.4%で (平年4.4%) で平年より少ない状況でした。

ウ 収穫期予測 (8月1日現在 品種：幸水)

DVRモデルによる収穫予測では、収穫盛期は8月31日頃 (満開後127日) で平年より2日早いと予測されます。

(3) りんご

ア 果実肥大 (8月1日現在 暦日比較)

「つがる」の縦径は平年比100%、横径が平年比103%、「ふじ」の縦径は平年比105%、横径が平年比108%と各々平年より大きい状況です。

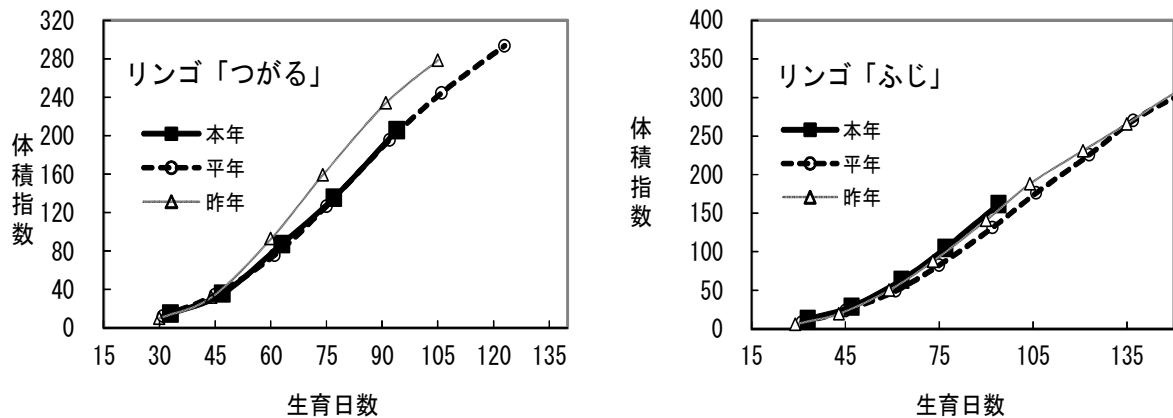


図3 りんごの果実肥大

イ 果実の成熟状況 (満開後91日 品種：つがる)

満開後91日 (7月29日) における果実品質は、硬度は14.2ポンドで平年より低く、デンプン指数は1.1で平年並の状況です。

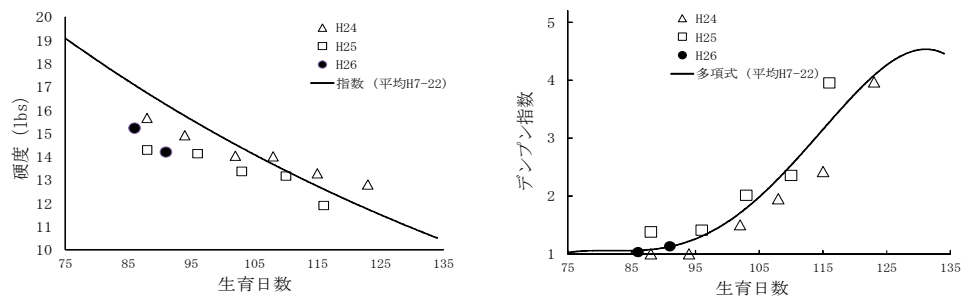


図4 「つがる」の果肉硬度とデンプン指数の推移

(4) ぶどう

ア 着色期

「巨峰」の着色開始期は、有核栽培で7月23日（昨年7月21日）、無核栽培で7月19日（昨年7月22日）、「あづましずく」の長梢栽培で7月14日（昨年7月11日）と各々昨年よりやや遅い状況でした。

イ 「あづましずく」の成熟状況（長梢栽培）

満開後56日（7月30日）の成熟状況は、糖度16.1%、酒石酸含量0.88%、カラーチャート値8.1となっており、酸の低下がやや遅い状況となっています。

**東北地方1か月予報(仙台管区气象台 平成26年7月31日発表)**

今後の気温の経過は、1週目（8月2日～8月8日）は高い確率が60%、2週目（8月9日～8月15日）、3～4週目（8月16日～8月29日）は高い及び平年並の確率が各々40%となっています。

※ 気象庁では「天気予報」以外にも下記の情報も発表しておりますので、これらも参考にして管理作業や防霜対策を進めましょう。

○ 季節予報

1か月間や3か月間といった期間全体の大まかな天候を3つの階級で予報しています。

URL: <http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/>

4 栽培上の留意点

(1) 乾燥対策

ア かん水

今後、降水量が少なく園内の土壌が乾燥するような場合は、10a当たり25～30tを1回のかん水の目安とし、5～7日間隔で実施しましょう。なお、保水性が劣る砂質土壌等では、1回の量を少なくして間隔を短くしましょう。

イ 草生管理

草生栽培の園では、樹と草との水分競合を防ぐため、草刈りを行いましょう。なお、地際部まで刈ると放射性物質をまき上げる可能性がありますので注意しましょう。

ウ マルチ

刈り草や稲わらのマルチにより、土壌水分の保持に努めましょう。

(2) も も

ア 中生種の収穫

「あかつき」の収穫開始は、核割れや胚障害の発生にともなう果肉先行により熟期が早まりました。今後収穫される品種も同様の傾向で推移することが予想されますので、果肉の軟化と収穫の遅れには十分注意しましょう。

イ 晩生種の収穫前管理

「川中島白桃」「ゆうぞら」等の晩生種は、今後果実肥大が盛んな時期に入りますので、修正摘果・樹上選果を丁寧に行い、製品率の向上を図りましょう。

また、夏期せん定、枝吊り、支柱立て、反射シートの敷設等、収穫前の管理作業は計画的に実施しましょう。

(3) な し

ア 修正摘果

「幸水」の裂果期は終了しましたので、早急に修正摘果を実施しましょう。摘果に当たっては、裂果した果実、変形果、肥大が停滞しやすい果点コルク間の地色が白い果実等を中心に整理しましょう。

#### (4) りんご

##### ア 落果防止剤の散布

「つがる」の落果防止剤にストッポール液剤を使用する場合は、収穫開始予定日の25日前頃の使用となりますので、着色系統の収穫期の把握には十分注意して使用しましょう。

##### イ 早生種の収穫前管理

「つがる」や「さんさ」では果面の30%程度が着色した頃から葉摘みを実施しましょう。

葉摘みにより日焼け果の発生が心配される場合は、直射日光の当たらない部位から開始し、日焼けの状態を確認しながら徐々に行いましょう。

##### ウ 修正摘果

現在、果実肥大や変形の有無、障害果等の区別がつきやすい時期ですので、製品率の向上に向け、丁寧に修正摘果を実施しましょう。

##### エ 枝吊り・支柱立て

果実の肥大にともない枝が下垂すると、樹冠内部や下部の日当たりが悪化し着色不良の原因となりますので、枝折れ防止も兼ねて枝つりと支柱立てを実施しましょう。

#### (5) ぶどう

##### ア 摘心（長梢栽培）

十分に葉数が確保された後の摘心は、果実品質の向上と翌年の結果母枝の充実が期待できますので、まだ伸長が続いている強い新梢は、20～25葉程度を目安に摘心しましょう。

また、副梢の摘心も同時に行い、園内が暗い場合は適宜新梢の間引きを行いましょう。

### 5 病虫害防除上の留意点

#### (1) 病 害

##### ア りんご斑点落葉病、褐斑病、輪紋病、腐らん病

斑点落葉病、褐斑病、輪紋病は、8月上旬に防除対策を実施しましょう。

また、腐らん病の発生が増加傾向にあります。枝腐らんや胴腐らんは、病患部の周囲の健全部まで5cm程度を切り取る若しくは削り取るよう心掛けましょう。

##### イ りんご炭疽病

発生が多い園では防除を徹底しましょう。また、同病の発生を抑えるため、園周辺のニセアカシア、シナノグルミ、イタチハギなどの伝染源植物は除去しましょう。

##### ウ もも灰星病、ホモブシス腐敗病

収穫間近の中晩生種が同病の重点防除時期となります。薬剤の収穫前使用規制に十分注意し防除を徹底しましょう。

##### エ なし黒星病

本病の発生が多い園では、使用基準を遵守し効果の高い薬剤を選択し散布しましょう。

#### (2) 虫 害

##### ア モモノゴマダラノメイガ

発生が多い地域では中晩生種を対象に8月中～下旬に防除を行いましょう。防除を実施した後も発生がみられる場合は、上記の散布10日後に追加防除を行いましょう。

なお、本種はクリやカキなども加害するため、近隣にクリ園やカキ園がある場合は、これらに対しても防除を行いましょう。

##### イ モモハモグリガ

モモハモグリガ第4世代成虫の発生盛期は8月2半旬頃、第5世代幼虫の防除適期は8月3半旬頃と推定されます。

本種の発生には、無防除のハナモモ園や放任園などの影響が考えられるため、無防除園の管理や放任園の伐採等を行いましょう。

##### ウ ナシヒメシンクイ

ナシヒメシンクイ第3世代成虫の発生盛期は8月3～4半旬頃と予想され、第4世代幼虫の防除適期は8月4～5半旬頃と推定されます。

本種の第3世代以降の世代は、なしやももで果実被害が発生する場合があります、例年被害が多い場合は必ず防除を実施しましょう。

##### エ カメムシ類

現在、新成虫が発生する時期となっており、山間及び山沿いの園では被害を受けやすいので、飛来状況をよく観察し多数の飛来が見られる場合は速やかに防除を行いましょう。

オ カイガラムシ類

ウメシロカイガラムシ第2世代幼虫の防除適期は8月上～中旬頃、クワコナカイガラムシ第2世代幼虫の防除適期は9月中～下旬頃と推定されます。被害がみられる場合は、適期を逃さずに防除を行いましょう。

なお、カメムシ類への対策等で合成ピレスロイド剤やネオニコチノイド剤等を使用している園では、天敵類の減少による同種の増加に十分注意しましょう。

カ ハダニ類

高温乾燥条件が続く場合はハダニ類の急増に注意しましょう。なお、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭）の密度に達した場合は、速やかに防除を行いましょう。

表2 果樹研究所における主要害虫に対する防除時期の推定（平成26年8月1日現在）

今後の 気温予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	第4世代 成虫盛期	第5世代 防除適期	第3世代 成虫盛期	第4世代 防除適期
2℃高い	8月6日	8月10日	8月13日	8月19日
平年並み	8月7日	8月10日	8月15日	8月22日
2℃低い	8月8日	8月12日	8月17日	8月25日

注) 演算方法は三角法による。

起算日 モモハモグリガ：7月18日、ナシヒメシンクイ：7月21日

### 病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

農作業事故を防止しましょう！

暑い日が続きますので、熱中症対策をしっかりと行い、  
体調管理に十分留意し、農業機械の操作にも十分注意しましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7339  
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧いただけます。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧いただけます。

URL: <http://www.new-fukushima.jp/>